

ドバイ校は啓明学園とビデオレターで交流 UAEから東京の仲間たちに「ありがとう」

ドバイ校は、五年生が中心となって小石丸を飼育。十月二十九日には啓明学園初等学校からビデオレターが届き、総合学習の授業で五年生全員が同学園とビデオレターで交流を深めました。

ビデオレターを見て日本を懐かしながら、なかなか無いチャンスにドバイの魅力をどんどん東京に発信していかうという子供たちが多く、ビデオを食い入るように見ていました。



日本からのビデオレターに大喜びのドバイの子供たち



ビデオレターを熱心に見る子供たち

一学期は中東という過酷な環境と蚕の飼育も初めてだったことから蚕は育ちませんでした。再チャレンジで挑んだ二学期は万全の態勢で挑み、見事集蚕に成功。子供たちは大満足。担任の向山先生は「子供たちも大喜びで、日本の子供たちに、ありがとうと伝えたい」と胸をなでおろしていました。同じく松崎先生は、「海外の日本人学校は、日本の文化・産業を海外に広める外交官と言えます。日本の伝統産業の蚕をUAEのローカルの子供たちにも伝



日本から届いた小石丸に喜ぶドバイの子供たち



蚕にびくびくしながら覗き込むドバイの女子児童

えていけたらと思います」と、UAEローカル小学校との交流会で日本の蚕の飼育と糸取りの実践を提案。UAEローカル小学校にとって、蚕を通じて「日本の伝統と文化」「産業」が日本の教育から学べるチャンスとなり、また、日本の子供たちも、なじみのない中東地域を知る機会が生まれるとともに、蚕の飼育という楽しい経験の中、少しづつですが英語を学んでいけるといふ側面もあり、双方の児童や父母、先生が熱心に取り組んでいます。来春に向けて、日本の小学校とUAEの日本人学校に加えUAEローカル小学校の三者による蚕の国際交流がさらに充実しそうです。



東京の子供たちにビデオレターを送るドバイの子供たち

海外で初。小石丸が繭に育って子供たちも大喜び

UAEから東京の仲間たちに「ありがとう」



東京の小学校から届いた小石丸に喜ぶドバイ校の子供たち

アブダビは百頭以上が繭に

アブダビ日本人学校では、卵から孵化した小石丸と、東京の子供たちから届いたもの合わせて百頭以上が繭になりました。
同校は今夏、木村先生が東京でのシルクツアーに参加。

小石丸の飼育方法を熱心に学びUAEで実践。

久須美先生、山本先生とともに中東の歴史上初となる小石丸の大量集繭につながりました。繭は卵を産ませるための数粒を



UAEの女子児童も熱心に小石丸に触れあっています

エミラティと日本の子供たちが育てた小石丸の繭



アブダビでは100粒以上が繭に



残して生糸用に保存。ドバイ校の繭とともに日本に届けられます。
今回の蚕の飼育では、現地のエミラティの児童たちの喜びようにも注目が集まりました。
そんな子供たちの夢を乗せて現代版シルクロードがスタートしました。